

## 授業科目 解剖学実習 II

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	理学・作業
西野 幾子、山口 康昭		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】					
<p>人体組織、特に骨、軟骨、筋の微細構造を光学顕微鏡的に観察し、それらを理解する。</p> <p>人体模型標本、関節機能模型、人体骨格標本などを用いて、人体、特に筋系、関節・靭帯系を理解する。</p>					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨・軟骨・筋・神経組織の構造を光学顕微鏡的に概説できる。</li> <li>2. 主な関節を構成する骨、それらに付随する靭帯を観察・スケッチし、それらの名称、簡単な機能を説明できる。</li> <li>3. 上肢・下肢の筋を観察・スケッチし、それらの名称と機能を説明できる。</li> <li>4. 体幹の筋を観察・スケッチし、それらの名称を説明できる。</li> <li>5. 系統解剖を見学し、人体の構造を3次元的に理解し、個々の身体の違いを実感する。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	解剖学実習 II の概要とオリエンテーション、組織学実習			1	実習
2	組織学実習：顕微鏡を用いた骨・軟骨・筋・神経組織標本の観察とスケッチ			1	実習
3	組織学実習：顕微鏡を用いた骨・軟骨・筋・神経組織標本の観察とスケッチ			1	実習
4	組織学実習：顕微鏡を用いた骨・軟骨・筋・神経組織標本の観察とスケッチ			1	実習
5	関節学実習：各関節の関節模型・関節機能模型の観察とスケッチ			2	実習
6	関節学実習：各関節の関節模型・関節機能模型の観察とスケッチ			2	実習
7	関節学実習：各関節の関節模型・関節機能模型の観察とスケッチ			2	実習
8	筋学実習：上肢・下肢・体幹の筋の観察とスケッチ			3、4	実習
9	筋学実習：上肢・下肢・体幹の筋の観察とスケッチ			3、4	実習
10	筋学実習：上肢・下肢・体幹の筋の観察とスケッチ			3、4	実習
11	筋学実習：上肢・下肢・体幹の筋の観察とスケッチ			3、4	実習
12	筋学実習：上肢・下肢・体幹の筋の観察とスケッチ			3、4	実習
13	筋学実習：上肢・下肢・体幹の筋の観察とスケッチ			3、4	実習
14	人体解剖見学実習@日本歯科大学			5	実習
15	人体解剖見学実習@日本歯科大学			5	実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系 第2版	監訳・坂井建雄、監訳・松村譲児	医学書院	2011・12,600円
参考書					
その他の資料		実習書の配布			
【評価方法】 実習態度、出席状況、スケッチブック、筆記試験の総合評価			【履修上の留意点】 実習室では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。 スケッチブック（指定）と色鉛筆が必要。 実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。		